

航空防除実施の概要



防除作業は、肥培管理、水管理と並んで最も重要な作業の一つです。防除の効果を最大に発揮させるには、広域にわたって一斉に防除することが大切です。

このように努力問題等を考慮し、併せて効果的な防除体制を確立すべく昨年秋から約一ヶ年にわたり、農家化、近代化、そして省力化と云う面でこれからの農業の姿を示唆するものと思われまます。

子どもを
水から守ろう

防除実施計画

実施面積	対象病害虫	薬剤名
第1回目 6月19日~20日	ニカメイチュウ 1	スミチオン
第2回目 7月9日~10日	葉いもち病 紋枯病	ラブサイドゾル パリダシン
第3回目 7月24日~25日	紋枯病 いもち病	パリダシン カスラグサイドゾル
第4回目 8月6日(予定)	ニカメイチュウ 2 いもち病	スミチオン カスラグサイドゾル
合計		5.080

水に親しむシーズンになり、今年も特に農繁期と共通の傾向をみせはじめ五月十日現在、子供、特に未就学児のいたまじい水死事故が、県全体で既に昨年より二人多い十四人に達するという憂慮すべき事態となっております。

このようないたいいかな犠牲者を出さないようにするためには、監護の徹底を期する以外に決定的なキメ手はありませんが、家庭と地域が力を合わせ、次のことを実践下さい。

一、子守りについて

留守番や炊事のかたまたまでは無理が生ずるので、専門の子守りをつけよう。

幼児は言葉で注意してもわからないので、目と行動でしっかり監視しよう。

二、家庭周辺の危険防止

幼児の水死は、そのほとんどが家庭内やその周辺でおきています。

浴槽、金魚鉢、バケツ、下水溝等、「まさか」と思うところに落とし穴があります。気をつけましょう。

幼児の場合、水の深さや量には関係なく事故につながるるので、庭池や下水溝等には絶対近づけないか、近づいても大丈夫なよう危険防止の措置をしておこう。

三、地域ぐるみの安全対策

幼児等が、危険な場所を遊んでいるときは、すぐ注意してやめさせるか、保護者に連絡しよう。

簡単な防護柵や、注意を促す看板等は、地域のみならず工夫し合って自衛の措置を講じよう。

事業所統計調査にご協力を

三年に一回実施される「事業所統計調査」が六月十五日、全国一せいに終わります。

これは国全体の事業所の実態をつかみ、行政、経済施策を進める上の基本資料となるものです。

このため調査は、会社、工場、商店、学校のほか、官公庁、病院、旅館から、神社、お寺にいたるまで対象となります。

この事業所統計調査は、国勢調査とならぶ重要な調査です。

基本的な調査です。後日、村の調査員が伺いたしますのでよろしくご協力願います。

村の調査員は次の方々です。

中村 康一	山田 正春	久保田 昭	後藤 昭雄
石野 陸一	沖野 勉	石野 昭	沖野 昭
竹多 芳	沖野 昭	石野 昭	沖野 昭

家城啓一郎氏を招いて 文化大講演会

~7月2日(日) 岩室中学校で~



家 城 啓 一 郎
(やしろ・けいいちろう)

村民が一堂に会し、共通の課題に耳を傾け、当面する国内情勢などについて、解を深めあう機会として、村が例年行っており、文化大講演会を今年七月二日、中学校で午後一時三十分からNHK解説委員、ただき多敷ご来聴下さい。

講師紹介

現職 NHK解説委員
出身地 神奈川県
出身校 早稲田大学政経学部
部卒

昭和二十五年、早稲田大学政経学部卒業、同年NHKに入り、福岡放送局報道部勤務、同年三十六年報道局政経部副部長を経て、同四十四年同副主幹となったその間、同三十六年社会党訪中団、同三十九年NHK中華人民共和国取材のため中国を訪問した。

生徒用 机、イス等の 処分について

岩室中学校の古い「生徒用机、イス」を処分いたしますので、希望者は左記により申し出て下さい。

一、申込場所
岩室中学校
二、申込期限
六月十日

後継者育成にはげむ

和納無形文化財保存会、村の指定文化財である、和納三社神社の祭はやし、後継者を育成しよう、和納無形文化財保存会では、毎月一回、ひょうし方の責任者、竹内松太郎さんを中心にして伝承のための特訓を行っています。

祭礼行事に欠くことのできない「ひょうし」は、古来から伝えられている独特のもので、たいこの微妙な音の変化によって演奏されるもので、それだけに一人前になるには、たいへん努力が必要です。

現在、このひょうし方に、二十五名が入っており、いずれも高令者ばかりで、このままでは、やがてすたれてしまうという危機感から行うことになったのです。

郷土の貴重な文化遺産を保存し、継承しようと、地道に努力している方々がおられることを知っていたため、ご紹介しました。

みなさん、がんばってください。

一人ひとりが節水を

6月1日から水道週間

蛇口をひねれば、好きなだけ水が出る。それは、とても便利な生活の中ですが、私たちはたしか水道の水の貴重さを忘れがちです。

しかし、その水をつくり、家庭に運ぶまでには、ばく大な費用と労力がかかっています。

ダムの建設、浄水場づくり、消毒用の薬品、導水管や、配水管の設置、施設の維持、管理―数えあげればキリがありません。

ところが電気やガスとちがって、水は、蛇口からポタポタと落ちていくの漏れでも、一時間で一リットル、一ヶ月間で普通の浴槽で約四分分にもなります。

日常のちょっとした不注意が、たいへんなムダを生むのです。

六月一日から「水道週間」が始まります。

これを機会に、節水心がけを今いちど新たにしたものです。



梅雨期に

交通 事故 激増

ご注意を!

毎日雨がうとうしい、梅雨空の六月は、連日の雨で道路がたいへん滑りやすくなっています。

昨年の統計からみると、六月の雨の日交通事事故は、全国で約一万件近く、三、四、五月の各月の雨の日の五千件前後にくらべると倍近い数字となり、梅雨シーズンがいかに交通事故発生危険が増大しているかがわかります。

ドライバーにとって、雨の日は視界が狭くなるうえに、路面が滑りやすく、車はちょうど水の上を走っていると考えてもよいほど、危険度が高くなります。

ドライバーのみなさん、工事現場の鉄板や路面は、次の当然の注意事項を十分にとりまします。

○工事現場の鉄板や路面は、次の当然の注意事項を十分にとりまします。

○ワイパーは常に整備し、速度を落とし、車間距離を十分にとりまします。

○滑りやすくなるので特に注意しましょう。

○ワイパーは常に整備し、速度を落とし、車間距離を十分にとりまします。

